工場内活動の諸問題

国立国会図書館

特501
924

*0034246000*

0034246-000

特５０１－９２４

工場内活動の諸問題

〔　　〕

〔昭和７〕

AGC

特501
924
605
第122號
國會圖書館藏書
55.5.22.

# 工場内活動の諸問題

## 序

勞働組合で働くことは何を意味するか？　それは企業で働くことを意味する――ロゾウスキ

1。勞働者の城塞は工場である。勞働組合の基礎は工場に置かれねばならぬ。工場こそ、勞働者が階級闘争を學ぶところの學校である。本來資本家階級とは如何なる一點でも利害が相反してゐる勞働者は、工場の中では一番ハッキリとその對立を現はしてゐる。工場の生活そのものが、文句なしに資本と勞働との對立を生むのである。そして勞働組合は、これらの自然發生的な對立、衝突を通じて、又意識的にその對立衝突を激成し、それを通じて勞働者を組織し、たゞに日常的な要求を闘ふばかりでなく、勞働者を搾取し、抑壓し、支配してゐる鐵鎖を斷ち切るために必要な一切の政治闘争に彼等を動員し、訓練するところの共産主義の學校である。勞働組合が共産主義の學校ならば企業や工場は勞働組合の教室である。勞働者の生活、勞働者の闘争は工場の中にある。勞働組合の基礎を工場に置かねばならぬ理由は正にこの點にある。だがそこに組織を置いた



80W20212

特501
924

だけでは未だ不充分である。そこには日常不斷の活動がなければならぬ。若しも一月でも我々の工場内の活動をやめたならば、それは階級闘爭を中止したことになる。それ程工場での活動は大切なのだ。勞働組合が強大になるかならないかは一に懸つて工場内の活動がうまく行はれてゐるか否かにあるといつても過言ではない。

革命的勞働組合運動の國際的經驗は、勞働組合が工場を基礎として作られ、且つ活動がそこに集中されてゐる場合にのみ、よく白色テロルの下で勞働者階級を資本への闘爭に動員し得ることを證明した。イタリー、ポーランドのファシスト治下に於て赤色勞働組合が數百（現在の日本の狀態はそうだ）ではなく、數千、數萬々組織して居り、且つ全ストライキの殆んど半數（日本では全協が指導或は參加したストライキは去年上半期に於て僅に一三%にしか過ぎない）を指導（ポーランド）してゐる事實を見よ！

我が日本勞働組合全國協議會は、舊評議會解散以後その革命的傳統を繼いで工場を基礎とする組合の再建を急速に行ひつゝあつた。併しながら四・一六や一昨年の八月事件の打擊と、そして四・一六後に發生した極左的偏向によつて、我々の努力にも不拘、又、我々の影響の擴大、大衆の左翼化にも不拘、滿足な結果を收め得なかつた。それ以後我々はプロフインテルン第五回大會の



決議に基きすべての方面に活動の急轉換を行ひつゝある。就中、工場内活動には最も力を注いで來た。そして我々の努力は漸く決定的轉換への第一歩をフミ出した。然り、それは本當の意味に於ける第一歩たるに過ぎぬ。我々の組織と活動は猶、今日日本の勞働者階級の中に包藏されてゐる偉大な革命的エネルギーを充分に發揮させるためには程遠いと言はねばならぬ。そしてこれには、色々な原因があるであらう。然しその中の極めて重要な原因の一つは工場内活動の不充分に歸することが出來やう。

我々は全國協議會の活動の急轉換にとつての最重要な一環は實に『工場内活動の強化』であると考へる。

本文は正にかゝる意味に於て重要な意義を持つことを我々は確信する。

## 分會の活動について

我々は先づ工場内の組織を問題にせねばならぬ。言ふまでもなく工場内には色々の組織がある。黨細胞、同盟細胞、組合分會、反帝、モップル等の班、共濟組合、工場委員會、文化組織、スポーツ組織等々。こゝで問題にするのは組合分會に就いてである。分會は勞働組合の基礎單位

である。組合の一切の闘爭はこれが土臺となる。勞働組合は分會を通じて大衆とつながつてゐる。だから分會は大衆闘爭の觸手なのである。こゝでの活動が巧いか拙いかが組合活動の、ひいては階級闘爭全體の消長に直ぐさま反映する。分會活動は階級闘爭のバロメーターだと言つても決して過言ではなからう。

では分會は誰が作るのか？　そしてどんな活動をするのか？　その生活はどんなものか？　これ位の事は苟くも組合活動をやつてゐる程の者なら誰でも知つてゐなければならない筈だ。ところが實際にはこのイロハが案外分つてゐない。

## （一）分會は誰が作るのか？

曾て京モスの女工さん達は組合加入をすゝめられた時、『私達は理論が分つてゐないから』、『勉强が出來ないから』といふので斷つたと言ふことを聞いた。又ある人々は、『全協には贊成だが彈壓されるから入るのは見合せよう』と、或は又プロフインテルンはよいが今の全協は間違つてゐるから一緒になるのは考へものだ、といふやうな聲――これは主として解黨派や統一協議會系の左翼改良主義者共が全協の權威を傷け、全協の組織に入つて活動したがつてゐる戦闘的勞働者



を引き留めるために意識的に放つデマではあるが、デマを信じてゐる大衆も決して少くはない――を實に度々きかされる。然しこれは間違つてゐる。分會は理窟屋や學者が寄り集つて作るのでもなければ又、『全協だから』彈壓されるのでもなく、闘爭が階級的である限り總同盟、全國同盟下の大衆や未組織勞働者にも下されるのだ。しかしその彈壓は我々の組織が大きく强くなることによつてハネ返すことが出來るのである。又よしんば全協が不充分だとしても（我々のところには未だ不充分がある、そのことをちつとも我々はかくしはしない、然しそれはたえざる革命的自已批判、闘爭を通じて一歩一歩と克服されつゝあるのだ）、プロフインテルンに贊成な人達がその方針の下に力を合せて活動して行つてこそ我々全體の不充分を一人一人ではなく集團的になくすることが出來るのだ。

全國協議會は勞働者自身のものだ。だから勞働者自身が作り、勞働者自身が擴大强化せずして一體誰がやるのか？――我々は闘爭を欲してゐる人、全協の組織に入つて活動したい希望を持つてゐる人達に向つてかう言はねばならぬ。そしてかゝる思想を執拗に注込んでやらねばならぬ。

だが問題はそれだけでは解決されない。全協にはいるのは仲々六ケ敷しいもの、學問がなければ出來ないもの、全協はコワイもの、全協は間違つてゐる、と云ふ風に勞働者に誤つて考へさせ

る様なことが果して我々のところにはなかつただらうか？

序に我々は勞働組合員の資格について言はう。

或る意味では全國協議會は眞の勞働組合とは言ひ得ないだらう、何故なら勞働組合はあらゆる傾向の勞働者を組織せねばならぬのに現在の全國協議會には共産黨支持者ではない組合員は一人もないと言つてもよい狀態であるから。かう云つたとて決して全國協議會が共産黨の指導から離れてもよいといふことを意味しない。正に反對だ。革命的勞働組合が革命的たり得るのは、それが共産黨の指導によつて日常要求の闘爭から窮極的闘爭まで勞働者の利益を守つて闘爭するからに他ならぬ。然しそれは共産黨を觀念的に支持するといふことによつてではなく、具體的な闘爭を通じてのことなのである。

『勞働組合は若しその行動に於て、活動の諸方法に於て勞働者階級の政治組織（共産黨）と自らを分つのでなければ、その存在理由をもたぬ組織である。勞働組合は政黨の意圖する目的に向つて、しかし異なる方法を用ひて進んで行く。この特別の方法は、副次的なものでも瑣事でもない。勞働組合は勞働者運動の特質の中に深く根ざしてゐるそれ自身の任務、その特殊の使命、階級闘爭に於ける特殊機能を有する』（ロゾウスキー）。

若しも我々が勞働組合の『階級闘爭に於ける特殊な機能』を理解せず、全國協議會といふ名稱で日本共産黨の外にもう一つの政治組織を作るといふ方法を採らうとするならば、全協はむづかしいもの、學問が無ければ出來ないものと云ふ樣な誤つた考へ方を持たせてしまふであら。そうなつたならば大衆が誤つてゐるのではなく、我々が誤つてゐるのである。

勞働組合は黨と違つて前衛の組織ではない。苟しくも資本家と闘爭する勞働者は誰でもはいれる組織、入れねばならぬ組織である。全國協議會はこの方針の下に精力的に活動してゐる。

勞働者は勇敢に組合（分會）に入らねばならぬ。彈壓がコワイから、學問が無いからと言つて尻込みしてゐては何時までたつても勞働者の力は大きくならぬ。自ら進んで自分達の組織を大きくするのだ、それは自分達自身の責任だといふ自覺を持たねばならぬ。又さうした自覺を持たせねばならぬ。

分會は、闘爭のとき出て來た活動的な勞働者を新組合員としてドン〳〵大膽に獲得せねばならぬ。非合法であるとか、組織がバレルといふ樣なことは何等口實にはならぬ。勞働者は本來革命的階級だ。勞働者の闘爭性を信じないことは小ブル的日和見主義だ。殊に工場では勞働者の氣質や言動はそこで働いてゐるものには一番よく分る。理窟の分つたものだけをコツ〳〵集めようと

するから、ウツカリ、スパイを引き入れても氣がつかない樣なことになる。我々の組織には物知りが必要なのではなく、行動的な勞働者が必要なのだ。そして鬪爭の中から理論を學ぶといふ方法こそ肝心なことだ。勞働者は皆が皆、さうした素質を生れながら持つてゐるのである。

この素質を階級的に成長させてゆくこと、それが工場で働く勞働組合員の仕事である。次の樣に言ふ者があるかも知れない、――『それでも勞働者は未だ勞働組合は何か特別のもの、偉い人にやつてもらはねばやつてゆけないもの』といふ風に考へてゐると。

たしかに勞働者の中にはそんな風に考へてゐる人達が澤山ある。然しそれらの人達が悪いのでなく、資本家と資本家の手代改良主義者共が勞働者の自覺を妨げて來たのだ。改良主義組合では、幹部の承認を得なければストライキもやれない。そしてイザ爭議となると出シャバッテ來て、モツタイブツタロ調で長々と演說（それも勞働者をゴマ化すためだが）したり、樂屋裏では資本家と取引して居りながら勞働者の前に出ては、如何にも苦心して交渉してゐる樣に見せかけ幹部のやり方に少しでも不平を唱へようものならヤレ共產黨、全協の手先だ、と言つて警察に引き渡したり、又『ぢや我々は手を引く』といつた樣なことで勞働者をオドカシ、彼等の自覺を押へつけてゐる。これでは勞働組合は偉い人が居なければやれないものと考へるのは無理もあるまい。



我々のところではこれとは正反對だ。一人や二人の幹部の口のきゝ方一つで勝てるのではなく、勞働者が團子の樣に一固りになつて鬪爭するからこそ勝てるのだ。偉い人がやるのでなく勞働者自身がやるのだ。現にドコの組合にもはいつてゐない人達が自分達自身でストライキを起して勝つた實例は澤山ある。全國協議會で指導したストライキは皆、從業員自身が鬪はねばならぬといふことを自覺させたからこそ强力に鬪へたのだ。勞働者にかうした實例を語つたならば、『何だ、そんなことなら我々だつてやれるぢやないか』といふ氣持を持つて來るのだ。そして『組合は偉い人がやるもの』、『學問が無ければ出來ないもの』といふ永い間浸み込んでゐた奴隷根性をキレイサツパリとかなぐりすてて、『組合は勞働者自身が作るのだ、自分達自身に責任がある、一つ組合にはいつて組合を大きくしやう』といふ自覺が湧き上つてくるのである。だから組合員は、眞面目で、親切で、勇敢であること以外に他の勞働者と變つた言葉やそぶりがあつてはならぬ。分會は勞働者が作り、勞働者自身が大きくして行かねばならぬ。

## （二）ドンな活動をするか？

工場分會は組合の上部機關から出される指令や方針をその工場で實行する組織である。だから、

第一、――すべての指令や方針がよく討論され一人一人のものとなつてゐなければならぬ。そしてその實行に當つて大衆の氣持から飛び離れない樣にすることが肝心である。

上部機關の方針を棒讀みにしてそれを工場の大衆に押し付けるのでなく、上部機關の方針を實行するためには自分の工場ではドウすればよいかといふ工夫が根本にならねばならぬ。これまでドコの分會にもあつた樣な上部の方針の燒き直しが自分達の仕事だといふ樣なやり方は最も下手な方法である。かういふ連中に限つて、巧くゆかなければ、それを上部の方針がまづいからだといふ樣に責任を上部になすりつけたり、又大衆の無自覺のせいにしてしまふ。

又或る者は言ふ、『組合の方針は贊成だ、だが俺の工場では一寸やれない』と。これはコミンタンやプロフインテルンの方針には贊成だが、日本では特殊な事情があるから共通りに出來ぬといつて、黨や全協の惡口言ふのを仕事としてゐる解黨派や勞農一派と何等選ぶところがない。

だからドウすれば方針が實行されるか？といふことを工夫することが分會活動の第一歩だと云はねばならぬ。次に、

第二、――分會は上部の指令や方針だけを賴りにしてゐてはならぬ。自分達の工場で起つた問題は分會自身で取り上げてドシ〳〵解決して行く位の自發性を發揮せねばならぬ。『自分のとこ



ろはかういふ問題があるが、やつていゝかどうか上の人に聞いてから』にしやうといふ樣な分會員がよくあるが、尻をヒツタ樣なことまで一々上の人に相談せねば出來ないなどと考へることは最もよくない。問題の性質によつて分會自身がドシ〳〵片づけて行かねばならぬ。然しかういふ場合でも上部機關へ報告するといふことを忘つてはならぬ。上部機關と相談もせずにストライキをやつたりなどして、うんとコヂらせてからその尻を持つて行くといふ樣な事になつては困るからだ。

第三、――分會は工場全體の勞働者を活動に引き込む樣に働かねばならぬ。それには第一に述べた樣に、上部機關の指令や方針の棒讀みで活動するのではなく、現實に勞働者は何を欲してゐるか、何が不平なのかを知り、その要求不平の根本をよく調べ、それに對して一定のまとまつた要求を示し、その解決の手段と方法を敎へねばならぬ。これまでドコでもやつてゐた樣に、少數の分會員だけが一人勝手に合點して、大衆をドウして働かすかを考へず、只要求をきめて、ビラを撒いて、押しかけろ！　叩きつけろ！　と言つてゐれば大衆はついて來るだらうといふ樣な調子であつてはならぬ。

『大衆はついてくるだらう』では、既に大衆から離れてゐる。『大衆と共に』でなければなら

ぬ。『大衆と共に』仕事をするには大衆と共にあるものでなければ出來ない相談だから、外部からの行動隊でビラを撒くといふやり方だけでは闘爭は起らぬ、起し得ぬのだ。我々の組織が如何に弱からうとも、又大衆の意識が如何に低からうとも、我々の組織がある限り、大衆に不平のある限り、その力に應じて大衆の氣持に應じて我々はその中で活動せねばならぬ。

要求をきめて、ビラを撒いて、押しかけるといふ樣に闘爭はいつも凡帳面に進むものではない。問題はドウしたならば、要求をきめ、ビラを撒き、交渉に押しかけさせる樣な情勢を作り出すことが出來るか？といふことだ。肝心なことに努力せず、先ばしつたことをやるのでは大衆は動かし得ない。

只出來もしないことを口先だけでシャベリ散らすのではなく、爲さねばならぬことを現在なし得る方法でやることが必要である。併し現在爲し得ることだけで留つてもよいと言ふのではなく、現在なし得る仕事を遂行し、次にはそれよりもヨリよく、ヨリ多くの大衆を動かすといふ樣にやること、そのために工夫をこらすといふことが必要なのである。

或る工場では、部分的要求をとりあげるといふことは、職場別にやることだと考へて工場全體の運動はソッチノケにするといふ樣な極端な解釋をした者もあつたが、これなどは現在爲し得る



ことを次の闘爭の足場にするといふ風にやらなかつた誤つた例であらう。ボロが少い、食堂が汚い、洗面所が狹い、便所が汚いといふ樣な不平をとりあげて闘爭し、それを解決してやるといふことは、次に來る首切反對、戰爭反對、議會打倒等々の闘爭のための有力な足場になるのだといふことを眞實に理解せねばならぬ。

第四、——分會はあらゆる闘爭の先頭に立たねばならぬ。先頭に立つといふことは、ビラや傳單を撒いたり、張り廻したりすることだけでもなければ、又所謂影響下分子をツツイて何々しろ！といふ態度とも根本的に違ふ。公然と大衆の面前で、即ち、集會を開くとか、從業員大會で演說をし、決議を作るとか、交渉の先頭に立つとか、或ひはデモを指揮するといふ風に、大衆の眞先きに立つて行くことである。だから分會員は最も勇敢でなければならぬが、飛び離れた個人的小英雄であつてはならぬ。大衆と結びつき、大衆を集團的に行動させる集團的英雄たらねばならぬ。

又大衆の動搖を防ぎ、あらゆる躊躇と逡巡を一掃するためには決然たる態度が必要だが、それには必ずしも革命的な言葉を必要とせぬ。問題はその內容であり、行動そのものである。だから『デモだ、襲擊だ』といふかはりに『腕を組んで皆でカケ合に行かう！』といふ調子であればよ

い。大それたことをやつてゐるのだと云ふ氣持を大衆に起させることはよくない。

又條件も考へずに無暗に『全協』の名前を振り廻した爲めに折角起ちかゝつた大衆が尻込みするといふことになつてはならぬ。

只細心の注意を拂つて適當な方法で全協の政策だといふことを知らせればよい。例へば從業員大會の席上で闘爭方法を煽動し、これが全國協議會の方針であるといふことを告げ、自分はこの方針に贊成だといふ樣につけ加へるべきだらう。俺は全協の組合員だと名乘らずともそれの政策を傳へる方法はいくらでもある。最善の技術をつくしてそのことを述べなければならぬ。公然たる活動、大衆の先頭に立つことをせずして大衆を我々の側に獲得することは不可能である。

## (三) 分會には政治生活が必要だ。

分會は組合の基礎單位であり、一切の闘爭の足場である。だからそこでは、上部の方針や指令が一人一人によくのみ込まれてゐなければならぬ。上と連絡をとつてゐる者だけが知つてゐればよいのではなく全員が知らねばならぬ。知つて行動するのでなければならぬ。一人が何かの都合で居なくなれば後の者は何もわからぬといふ樣なやり方ではよくない。上と連絡が切れたために



何もやらなかつたといふ樣なことをよく聞かされるが、これなども全員が方針を理解してゐない爲に生ずる間違ひなのである。AとB、BとC、AとDとの間には各々違つた見解があつて何の統一もないといふことでは仕事は出來ぬ。又上から方針が示されなければ何も出來ぬといふことゝでは日常工場の中に生起する問題を取り上げてすばやく處理するといふことは出來ない。だから分會は上からの指令や方針だけをあてにするといふのでなく、進んで自分達の間でお互ひによく相談し合つてやつて行く樣にせねばならぬ。そのためには、從來の樣に何かカンパーニャをやるときだけ集るといふやり方ではなく、日常そういふ仕事をやつて行かねばならぬ。Aの職場の出來事と、BCの職場の問題とが絶えず一ツの集會に持ち出され討論されねばならぬ。解決の方法とその實行の手段が決められなければならぬ。何か事件が起つても、Aは前々から知つてゐたがBとCは全然知らなかつたといふ樣なことではならぬ。上の方針を討議するだけではなく、自身達の職場での毎日の出來事が分會員の話題に上されるのでなければ、闘爭の自然發生性と緣を切つて前以つて闘爭を準備するといふ樣にすることは不可能である。組合の指令や方針はもとより、日常工場での出來事、大衆は何を考へ、何を要求し、何を欲してゐるかが絶えず分會員の討論に上されねばならぬ。これが所謂政治生活である。この政治生活がなかつたならば、組織は潑溂た

る生氣がなくなつて全く死んだものとなつてしまふ。

分會が何もしない、不活潑だといふことはキットこの生活がないことに原因してゐる。或る者は我々が非合法だといふことを理由にして『ソンナことが出來るもんぢやない』と云ふかも知れぬ。だが然し非合法なるが故に益々かうした生活が重要なのであり、そのために努力せねばならぬのだ。合法時代のやうに問題が起れば組合事務所に馳け込んで相談するといふ樣な譯に行かぬ。上部との連絡協議がその日にでもすぐに出來ない樣な狀態にあればある程、そこで働いてゐるもの同志があらゆる問題を討論し、それを實行することが益々要求される。

ぢや分會は以上の樣な生活だけでよいのか、と云へば決してそうではない。その政治生活を大衆の生活の中に持ち込む事が重要である。從つて分會員は、問題がある度に責任者をきめてやらせるといふだけではなく、日常の組合活動をその成員の技能に應じて分擔する事、そして各自が自己の責任と充分に自覺して活動する事が必要である。例へばAをキャップにし、Bを組織活動、Cを工場新聞編輯者、Dを財政係、或ひはモップル、反帝等々の責任を持たせるといふ樣な方法が採られねばならぬ。人數がズツト多くなれば、各責任者の下に委員を置く樣にし、分會員を何等かの形で日常活動に參加させる樣にすべきだ。『どうも分會が不活潑だ』といふ事はこの仕事の



分擔、それを通じての組合員としての責任が持たせてゐない事が原因の一つとして數へられる。

又、分會は出來たが、何かゴタゴタしなければつぶれてしまひはせぬかといふ心配から、大衆の氣持や條件なども考へずに、ノベツ幕なしに、やれデモだ、ストライキだと空騷ぎをし、肝心な仕事の分擔、その日常活動を通じての組織の强固化といふことを全然考へてゐない樣なところも澤山あるが、かういふところでは至急分會員の性能に應じて仕事がふり當てられねばならぬ。

この場合注意せねばならぬことは、これまでよくあつた樣に、責任の持たせッ放しといふやり方を改めることだ。皆がお互ひにその仕事のやり具合を批判し、協議し、助け合ふといふ樣にして行つたならば、『仕事は持たせたが結局やれはしない』とか、『あれには荷が勝ち過ぎる』とかいふことはなくなるであらう。

## そんなら、どうすべきか

以上で我々は、分會とは何か？ ドンナ機能を持つものか？ 如何なる生活、如何なる仕事が必要か？ といふことは大體述べた。では上に述べたことをやるために今日から我々はどうせねばならぬか？ 分會員の生活態度はどうあらためねばならぬか？ その仕事のコツはドンナところにあるか？ といふ樣な問

題に就いて述べよう。

然しこゝで述べることは、こんな場合はかうすべきだと云ふ樣に一ツ一ツ型を示すことではない。又そんな公式は作れるものでもない。だから多くの場合當てはまる樣な二三の例を擧げるに止める。

## (一) 生活態度を根本的に改めよ！

(イ) 先づ第一に合法主義と緣を切らねばならぬ。多くの人達は、ストライキには合法主義はないといふ風に考へてゐるらしい。工場主や警察や他の職工達に自分が全協の組合員だといふことが知れてゐないといふことだけを以て非合法だと考へるのは誤りである。勿論『組織』は非合法(秘密)でなければならぬ。然し活動を秘密にすることはよくない。いつも自分は非合法だ〳〵と考へてゐるから何か公然とものを云つたり行動することがコワクテ〳〵仕樣がないやうになるのだ。何かすれば工場主にニラマレはしまいか、警察に引ツ張られはしまいかといふことを心配して小さくなつてゐる。これこそまぎれもない合法主義である。

泥棒は夜中にコツソリ仕事をするが、それは決して非合法主義者であるからではなく、法律がコワイから、監獄がコワイからなのである。コレ位ハツキリした合法主義者はないだらう。若し



も我々が穴藏の中にかくれて通りすがりの人に窓から手だけ出してコツソリビラを渡すといふ樣なことであつたら大衆闘爭を組織するなどといふことは不可能である。

強制調停に反對しないことだけが合法主義ではなく、大きな聲で話をしたり、人を集めたりすることをビク〳〵すること、それが合法主義なのだ。それだからこそ、強制調停にも警察官の暴行に對してもだまつて引ツ込んで仕舞ふ樣になるのである。合法主義は人が持つてゐるのではなく、自分達の日常生活の中にあるのだといふことを知り、そしてその態度を根本的に變へることが必要である。

(ロ) 秘密な態度を改めよ！

秘密なそぶりや言葉は決して人にいゝ感じをあたへるものではない。殊に工場の中などでは、大衆にイヤがられるだけならまだしも、大衆にコワガラれるのだ。秘密らしい態度をとつてゐることは如何にも何か陰謀でもたくらんでゐる樣に思はせるではないか。必要なことは秘密に打ち合せて置けばよい。決して大衆の前で秘密らしい態度があつてはならぬ。公然やれることまでわざ〳〵秘密にコソ〳〵してゐる場合が多い。例へばピクニツクに行くとか、活動寫眞や芝居に行くとか、或はお花見、つみ草に行くと云ふ場合氣の合つた者同志をコツソリ語り合つて行くとい

ふことをやつてゐるが、かう云ふ場合などはウント大衆的に、公然と仕事場で、寄宿舎で、お部屋で言へることではないか？

すべての場合秘密らしい言動は大衆から離れる基だといふことを知らねばならぬ。

（八）秘密な態度がイケナイ如く、物識り的な、勿體振つた態度も同様によろしくない。かうした態度が我々から脱けきらないといふのは、我々自身がまだ、大衆の生活の中で生活し、大衆の喜んでゐる物を喜び、大衆が痛がつてゐる處を痛がるといふ様になつてゐない證據である。

例へば、所謂左翼張りの言葉を日常使ふとか大衆が馬鹿話をしてゐる時自分は一人離れて工場の隅ッコで赤い本を擴げてゐるといふ様な超然的な態度があつてはならぬ。

我々は馬鹿ッ話の中でも大衆が何を要求し何を欲してゐるか、何を痛がつてゐるかといふことを見出さねばならぬ。そしてそれを親切に説明しその解決のために大衆を動かす様に利用せねばならぬ。

大衆の氣持や話の中に自身が溺れ込んでしまうのでなく、常にその話の中心になつて、それを一定の方向に向ける様にすべきであらう。だからそのためには人々の氣持ばかり窺つてゐるといふのではなく、休憩時間や晝休みや其他勞働者が集る様なあらゆる場所で進んでそういふ様な話



題を持ち込んで行く様にすることが必要だ。

我々の最も尊敬する指導者同志山懸は、毎日ブルジョア新聞を工場に持つて行つて、それに書いてある記事を大聲で讀みながらその周圍に人を引き付け、そこでいろ〳〵な問題をそこの勞働者達の不平や要求と巧みに結びつけて説明し、宣傳し、煽動した。と云ふことを我々は聽いてゐる。ブルジョア新聞なら誰でも持つて行つて讀めることだ。そして我々がそれを階級的に取扱ふなら、生きた煽動材料が澤山載つてゐる。それをやることは面倒なことでもなければ、困難なことでもない。誰にでも出來ることだ。『勞新』や『無新』等も大衆的に巧な方法で例へば服のポケットや道具箱の中等に氣づかれない様に入れて置くとか、或ひは工場の門前で大衆に手渡しするとか、或ひは又各自の自宅に郵送するとか——勿論我々の力が弱い場合のことであつて公然と配布され得るなら問題は自ら別だ——で配布されるならば、それを公然と話題に上せることは大して困難なことではない。

要は、勞働者の生活のあらゆる場面について語ること、あらゆる政治問題を公然と語ること、語り得る空氣を作る様に努力する點にある。これらの仕事は大衆からかけ離れて生活してゐては決して行ひ得ないであらう。

二、最後に大衆の信頼を得ることが大切である。そのために第一は、勇敢でなければならぬ。例へば、監督に口をきく方が悪かつたと云つては撲られたとか、或ひは寄宿舎で歌つたために罰を喰つたとかいふ様な小さな問題が起つた場合、先に立つて抗議やかけ合ひをやるといふ様なことが必要である。第二、親切でなければならぬ。例へば、病氣を押して工場に出たため病氣がひどくなつて寢込んでゐて家族が喰ふに困つてゐるとか、或ひは家賃を拂へなかつたために追立を喰つてゐるとかといふ様な場合、進んで見舞に行つたり、皆から見舞金を集めるとか、又一緒に大家にかけ合つてやるとかいふ様にドンナ問題に就ても親身になつて世話をしてやり、良い相談相手になる様にすることが必要である。我々が工場内でかういふ風に活動するならば、大衆の信頼は期せずして集るだらう。そうするならば我々が言ふこと、なすことすべてが大衆の中に權威を持ち、信頼を獲得する。一口に言ふなら、あいつは年は若いが仲々親切で物わかりがよくてしつかり者だ。と云はれる様になることが肝心なのである。さうすれば『どうも我々は年が若いので仕事がやりにくい』、『經驗がないので困る』といふ様なツマラナイ愚痴はなくなるであらう。

## (二) 仕事のコツを知らねばならぬ。



凡そ仕事をなすにはコツがある。階級闘爭だつて同じことだ。仕事のコツさへわかれば一寸むづかしい様なことでも案外たやすくやつてのけられる。我々は多くの場合一寸したコツでやれる様なことを公式的に考へて、なんだかむづかしいものとして何もせずに終るか、或ひはやるにはやるがどうも大衆が動かぬと云ふ様なことを聞かされる。

『あそこの分會には十何人居るが活動的なメンバーが少いために何もやれぬ』といふ様なことをよく聞くが、これなども、要求をきめて、ビラを撒いて、押しかける！と云ふ様な公式ばかり押しつけて、ドウすれば『押しかけるまでに』することが出來るか？ そのための仕事のやり具合をどうすべきか？といふことに就て分會員に納得の行く様な方法を教へてゐないことが原因の一ツと思はれる。

例へば食堂が汚い、便所がきたないといふ様な問題に就て、分會は、要求をきめて、ビラを撒く、懇談會を開けと呼びかける。ところが大衆は動かない！ ドンなに部分的な要求が大衆動員には必要だと云つても、いつも大衆はコンナ調子で動くものではない。そこがコツだ。

食堂が汚いならば、分會員は先に立つて布巾を取つてそこらを拭いてやる位のことがなければならぬ。翌日もその翌日もそんな狀態だつたら、諸君——コンナことでは仕様がないから一ツ事

務所にカケ合はふじやないか？　といふ風に提案したならば、恐らく反對するものはあるまいではないか？　押しかけろと言はなくても大衆は自ら進んで事務所に行くであらう。

或るところではコンナことがあつた。日本車輛工場で、命令休暇反對、移轉による首切反對といふ要求でストライキをやつたとき、勞技會のダラ幹共は給料からサツ引くといふ條件で會社から一時前借をして、命令休暇反對の要求をウニヤムニヤにしてしまつたことがあつた。それに對して分會は、ダラ幹をバクロして、命令休暇反對！　移轉による首切反對！　といふ要求を叫んでゐた。然し少數の人達を除いて大衆は一向に動かうとはしなかつた、といふのは、分會のスローガンが一ケ月も二ケ月も繰返し同じことを叫びかけてゐたことに對して、大衆はシビレを切らしてゐた一方、ダラ幹の處置を不平を持ちながら半ば承認した形であつたからだ。ところがモツト〳〵日常の痛切な不滿であつたのは、そして全員がそれを要求してゐたのは、雨降りの時、工場の中に水が浸入して來るのをナントカして貰はねばならぬといふ要求であつた。分會はその要求をとり上げて煽動した。ところが一時下火になりかゝつた工場の勞働者は、たゞそれだけで、再び活潑になつた。然しそれは大衆行動とまではならなかつた。若しもその時分會員が、前記の樣な方法で、ボートや鐵板のキレツパシでもよい、それをもつて先に立つて工場の中に溜つてゐる



雨水を流すために溝を作つてやるといふ風な仕事をしながら、雨もりをなほせ！と要求したならば只それだけでも大衆行動が出來たであらう。そしてそういふ樣な仕事をやることによつて大衆の信賴を得たならば、再び鬪爭をモリ上げるといふ樣な條件を作り出すことが出來たであらう。それからもう一ツ、これは最近の例であるが、東京府下三河島の有名な貧民街千軒長屋で、町會が失業者のために炊き出しをしたことがある。ところが勞働者達は餘り喜んで喰ひに行かなかつた。之に對して失業者同盟の人達は皆を押しかけさせ樣として、『皆行け皆行け』といふ樣にふれまはつたが矢張り勞働者達は行かない、何故行かないかと云へば『きまりが悪い』、『體裁が悪い』と云ふ氣持からだと云ふことが分つた。これは當り前の話である。失業者は立派に働く意志を持ちながら働けないのだ。生れながらの乞食やルンペンとは違ふ。出掛けて行つて貰つて喰ふのは恥しいと云ふ氣持だ。

然し持つてくれれば喰ふにきまつてゐる。そこでこういふ樣な場合、『喰ひに行け』ではなく、『配給しろ！』といふスローガンをかゝげ、そして同盟員は先きに立つて配給をしてやる位の活動をすることが必要である。これは追隨的でもなければ、改良主義的でもない。若しもその樣な事が行はれたならば、その翌日は長屋の人達は同盟員と共に炊き出しの場所に押しかけ、そして

モット澤山よこせと要求したであらう。又我々は大衆のその要求を捕へて、生活費をよこせ、仕事をよこせーといふ具體的要求をもつて町役場や府廳或ひは政府に向はせることが出來たであらう。

すべてこゝに述べたことは、一寸頭を働かせば誰にでも出來ることである。このコツが工場の中の仕事には必要なのだ。

## むすび

勞働者の生活は日增に苦しくなつて行く。失業者は洪水の樣に刻々に增大する一方だ。如何なるプロルも勞働者の反抗をクヂクことは出來ない。大衆は何ものによつてもおさへることの出來ない力で急進化しつゝある。改良主義者は大衆から見放されつゝある。そしてこれらの大衆に獨り全國協議會のみが信賴されつゝある。全國協議會は益々廣汎な大衆によつて支持されつゝある。然しながら全國協議會は大衆の要求を充分に滿すといふ事は出來ずに居る。

彼等の多くのものが全國協議會の方針に贊成しながら組織に參加してゐない。大衆はまだ、『全國協議會に入つてゐれば馬鹿を見ずに濟む』、『全國協議會と一緒にブツツカツて行けば何とか片



付く』といふ樣になつてゐない。その大きな原因の一ッは我々が工場の中での仕事のやり方がまづいことであると云はねばならぬ。我々は工場內の仕事を根本的に革新するために急轉換をやらねばならぬ。そして今日の組織に何十倍、何百倍する大衆的組織にして行かねばならぬ。

全國の組合員諸君——讀むだけではなしに、聞くだけではなしに、仕事をしよう。懸命に働かう。そして次には『誇りを以て』お互ひに成果を語らう。

# 全協の旗の下に

## 全協の理論機關誌！

「全協の旗の下に」は、兄弟の絶大な支持と期待の中に出た。
矢継早に第二號が出る！
革命的理論なくて正しい實踐はあり得ない。
資本に闘はふとする勞働者は皆讀め！　そして俺達の『全協の旗の下に』を
俺達の手で守れ！

---

**第一號**　革命的反對派に就て
失業と闘へ

**第二號**　第一回中央委員會の意義と任務
ファシズムに對する闘爭

定價（勞働者　十錢
一般　十五錢